

取付説明書

AVIC-CL902XS

AVIC-CZ902XS

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と取扱説明書の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しください。

※ AVIC-CL902XS の取り付けについて、同梱の電源コードをご使用になる場合、別売の 8V 型カーナビゲーション取付キットに付属されているダイレクト接続ハーネスの加工や取付キットの追加購入が必要になります。

※ 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

パイオニア株式会社

〒113-0021

東京都文京区本駒込2-28-8

文京グリーンコート

© パイオニア株式会社 2018

< KNGZ181 > < CRA5252-A >



作業の進めかた

①はじめに

- 接続・取り付け部品を確認する 2

②接続のしかた※

- 接続の前に知ってほしいこと 4
- 接続端子の名称と働き 6
- システムの接続 1 8
- システムの接続 2 10
- 電源コードの接続 12
- 外部アンプの接続 16
- ネットワークモードの接続 18
- リアモニターの接続 19
- カメラユニットの接続 20
- iPhone / iPod、スマートフォンの接続 21

※ AVIC-CZ902XS の背面を例に説明します。

③取り付けかた

- 取り付けの前に知ってほしいこと 25
- ナビゲーション本体の取り付け 26
- GPS アンテナの取り付け 29
- 音声認識用マイクの取り付け 30
- フィルムアンテナの取り付け 32
- スマートコマンドの取り付け 40

④接続・取り付けが終わったら

- スピーカーモード設定を行う 42
- 接続・取り付けの確認を行う 43
- ステアリングリモコン設定を行う 46
- バックカメラ設定を行う 47
- AUX 設定を行う 48
- ドライブレコーダー設定を行う 49
- リアクルーズモード設定を行う 50
- センサー学習のエラーメッセージ 52

接続・取り付けが終わったら、必ずスピーカーモード設定～リアクルーズモード設定を行ってください。(P.42～51 ページ)

接続・取り付け部品を確認する

ナビゲーション本体関連

AVIC-CL902XS



ナビゲーション
本体× 1



バインドネジ
(5 mm × 8 mm)
× 8

AVIC-CZ902XS



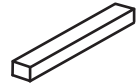
ナビゲーション
本体× 1



トラスネジ
(5 mm × 8 mm)
× 8



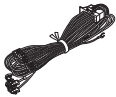
皿ネジ
(5 mm × 9 mm)
× 8



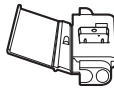
スペーサー× 1

接続ケーブル関係

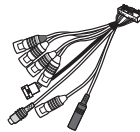
AVIC-CL902XS/CZ902XS



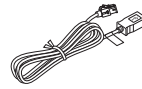
電源コード
(「RD-N001EX」
相当品) × 1



U エlement
コネクター× 1



RCA 入出力ケーブル
(「RD-E100EX」
相当品) × 1

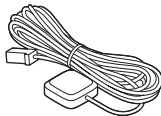


USB 接続ケーブル
(「CD-U120」
相当品) × 1



USB 接続ケーブル
(「CD-U420」
相当品) × 1

GPS アンテナ関係



GPS アンテナ× 1



金属シート× 1

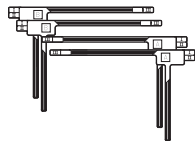


クランパー× 3



両面テープ× 1

フィルムアンテナ関係



フィルムアンテナ
①・② 各 2



アンテナケーブル
1A・2B・3B・4A
各 1



クリーンクロス× 1

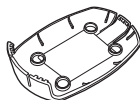


クランパー× 6

スマートコマンダー関係



スマートコマンダー
本体× 1



アタッチメント× 1



両面テープ× 1



タッピングネジ× 2



単 4 形アルカリ
乾電池× 2

音声認識用マイク関係



音声認識用マイク× 1



両面テープ
(15 mm × 12 mm) × 1

メモ

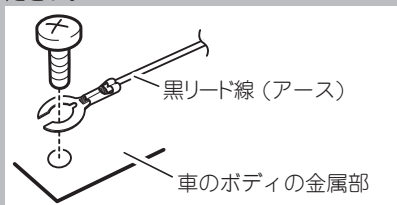
- マルチドライブアシストユニット「ND-MA1」（別売）の取り付けについては、マルチドライブアシストユニットに同梱の取扱説明書も併せてご確認ください。

接続の前に知ってほしいこと

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

接続上のご注意

- 本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



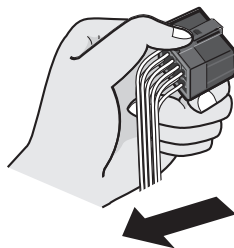
- 本機は、エンジンスイッチに ACC ポジションがない車では使用できません。必ず、エンジンスイッチに ACC がある車でご使用ください。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。**接続すると車のバッテリーが消耗します。**
- 若草色リード線（パーキングブレーキスイッチ）は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。**接続しないと一部の機能が使用できなくなります。**
- 黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。

- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- スピーカーのリード線をアースに接続したり、複数のスピーカーの（-）リード線を、共通にして接続しないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力 50 W 以上のハイパワー用で、インピーダンスが 4 Ω から 8 Ω のものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーやアンプの発火・発煙・破損の原因となります。
- ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青/白リード線（アンテナコントロール）を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオ放送の受信ができません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

コネクターの脱着のしかた

- コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクターどうしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。
- コネクターを外すときは、図のようにコネクター部分を持ってロックを押しながら引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。



例：電源コネクターの場合

接続のポイント

ノイズ防止のために

- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコード
 - * ビーコンアンテナおよびそのアンテナコード
 - * マルチドライブアシストユニット「ND-MA1」（別売）および「ND-MA1」に付属のフロントカメラユニット
- それぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

電源配線キットを別売しています

- システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不足する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

ピンクリード線の接続について

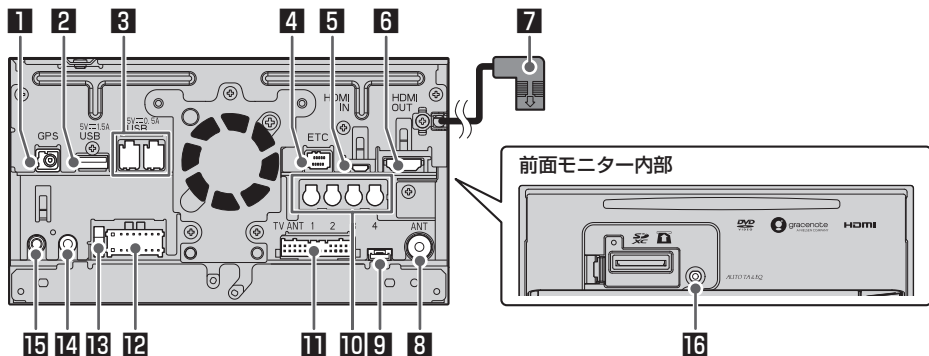
- ピンクリード線（車速信号入力）は、内蔵の3Dハイブリッドセンサー用のリード線です。必ず接続してください。
- ピンクリード線を接続しない場合は、簡易ハイブリッド方式で動作し、測位誤差が大きくなる場合があります。



接続端子の名称と働き

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

AVIC-CL902XS/CZ902XS



※ 図は AVIC-CZ902XS を例としています。

メモ

- 本商品背面のヒートシンクは銅メッキ処理する部材の性質上、色ムラや色変化が生じる場合がありますがご使用には問題ございません。

1 GPS アンテナ接続端子 (緑)

付属の GPS アンテナを接続します。
(15 8 ページ)

2 USB 接続端子 (Type A) (黒)

同梱または別売のケーブルを使用して iPhone / iPod、MTP 接続対応 Android™ 端末や USB デバイスを接続できます。
(15 8、22 ~ 24 ページ)

3 USB ケーブル接続端子 (茶)

同梱、別売、または接続機器に同梱の USB 接続ケーブルを接続します。
(15 8 ~ 11 ページ)

4 拡張入出力端子 (黒)

別売の ETC2.0 ユニットまたは ETC ユニットが接続できます。
(15 8 ~ 9 ページ)

5 HDMI 入力端子 (Type D) (黒)

別売のケーブルセットを使用して、iPhone、iPod や Android™ OS 搭載のスマートフォンが接続できます。
(15 23 ~ 24 ページ)

また、HDMI 出力ソース (ブルーレイディスクプレイヤーなど) も接続できます。
(15 8 ~ 9 ページ)

6 HDMI 出力端子 (Type A) (黒)

HDMI 入力に対応した別売のパイオニア製リアモニターなどが接続できます。
(15 19 ページ)

7 ビーコンユニット接続端子 (青)

別売のビーコンユニットが接続できます。
(15 8 ~ 9 ページ)

8 AM/FM/FM VICS 用アンテナ入力端子

車載のラジオ用アンテナを接続します。

9 バックカメラ接続端子 (白)

別売のバックカメラユニットが接続できません。
また、別売の純正バックカメラコネクタ変換ケーブルを使って、一部の純正バックカメラを接続することもできます。
(15 20 ページ)

10 フィルムアンテナ接続端子 (黒)

付属のフィルムアンテナ 1A、2B、3B、4A それぞれを接続します。
(15 32 ~ 39 ページ)

11 映像・音声入出力端子 (黒)

付属の RCA 入出力ケーブルを接続します。
(15 8、10 ~ 13、16 ~ 19 ページ)

12 電源端子 (黒)

付属の電源コードを接続します。
(15 8、12 ~ 18 ページ)

13 ヒューズ (10 A)

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

14 AUX 入力端子 (黒)

別売のドライブレコーダーユニット「VREC-DS600」や VTR などの外部映像機器が接続できます。
(15 8、10 ~ 11 ページ)

15 ステアリングリモコンアダプター / ステアリングリモコンケーブル接続端子 (黒)

別売のステアリングリモコンアダプターまたは、別売のステアリングリモコンケーブルが接続できます。
(15 8 ページ)

16 音響特性測定用マイク入力端子 (黒)

別売の音響特性測定用マイク「CD-MC1」を接続します。
注：音響特性測定用マイクは、測定時のみ接続してください。

システムの接続 1

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

次の製品のうち2つを接続できます。

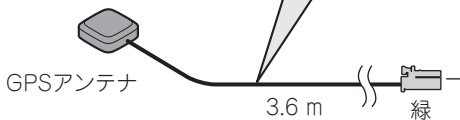
- マルチドライブアシストユニット「ND-MA1」(別売)
- データ通信専用通信モジュール「ND-DC2」(別売)
- ドライブレコーダーユニット「VREC-DS600」(別売)
- USBメモリー

接続は(☞10~11ページ)

- iPhone / iPod
- MTP接続対応Android™端末
- USBデバイス

iPhone / iPodの接続は(☞22~23ページ)
MTP接続対応Android™端末の接続は(☞24ページ)

長さが足りないときは、別売のGPSアンテナ「AN-G050」(5 m)または別売のGPSアンテナ延長ケーブル「RD-G34」(3 m)をご使用ください。



- ステアリングリモコンアダプター(別売)
- ステアリングリモコンケーブル(別売)
- 取付キット付属のステアリングリモコンケーブル(別売)
(AVIC-CL902XSのみ接続できます。)

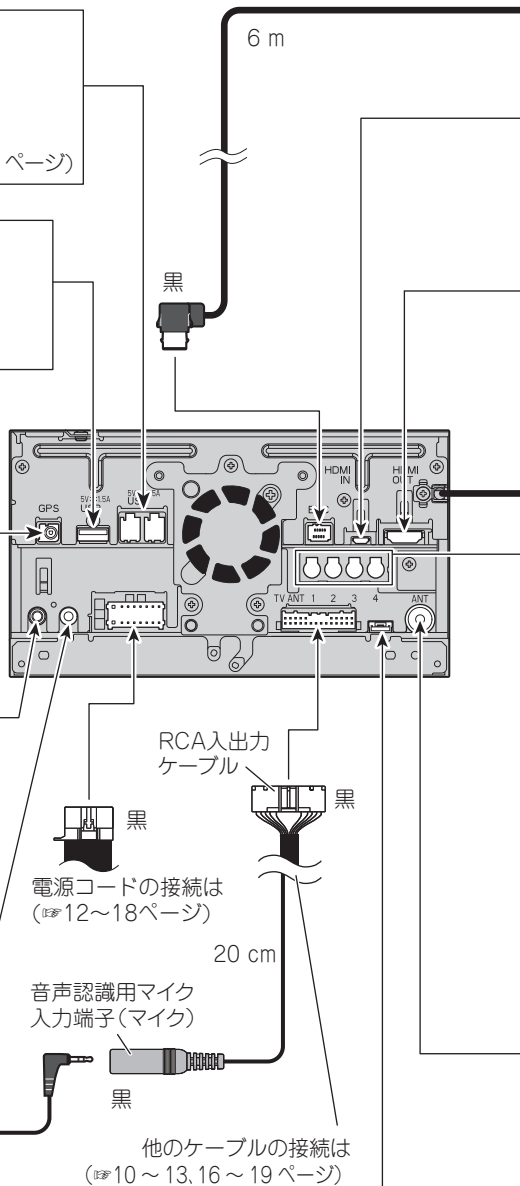
接続は(☞10ページ)

- ドライブレコーダーユニット「VREC-DS600」(別売)
- VTRなどの外部機器

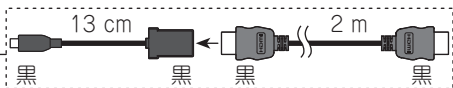
接続は(☞10~11ページ)



音声認識用マイク

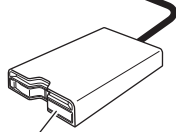


iPhone / iPod、スマートフォンの接続は(※23~24ページ)

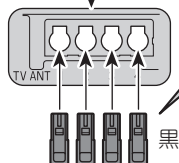
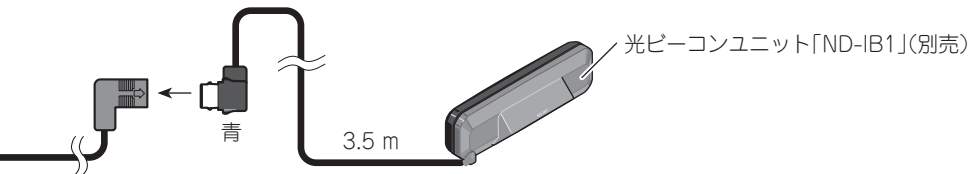


HDMI 接続ケーブルセット「CD-HM021」(別売)
ケーブルの固定方法については(※21ページ)

パイオニア製HDMI入力のリアモニター接続は(※19ページ)



ナビ連動型ETC2.0ユニット
「ND-ETCS1」(別売)
または
ナビ連動型ETCユニット
「ND-ETC8」(別売)

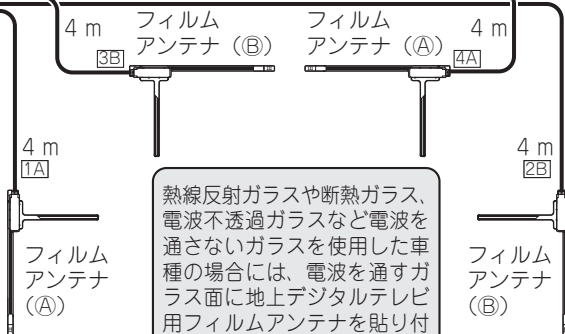


注：端子側に記載された番号とナビゲーション本体に刻印された番号を確認し、必ず同じ番号どうしを4本とも接続してください。(1A→1、2B→2、3B→3、4A→4)
正しく接続しないと、本来の性能が得られません。

注：他のコードと束ねないでください。

長さが足りないときは、別売の地上デジタルTVアンテナ延長コード「RD-DTV130E」(3 m)(2本一組)をご使用ください。

車載ラジオ用アンテナプラグ



熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、電波を通すガラス面に地上デジタルテレビ用フィルムアンテナを貼り付けてください。

バックカメラユニットの接続は(※20ページ)

システムの接続 2

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

注：W/R(ワイヤードリモート)端子とAUX端子の接続間違えにご注意ください。

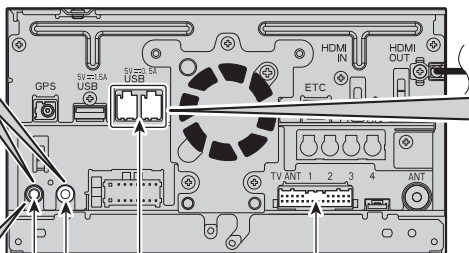
注：奥まで確実に押し込んで接続してください。接続が不十分だと誤動作の原因となります。

注：必ずステアリングリモコン設定を行ってください。(※46ページ)

ステアリングリモコンアダプター(別売)

ステアリングリモコンケーブル(別売)

AVIC-CL902XSでは取付キット付属のステアリングリモコンケーブル(別売)を接続することができます。



黒 RCA入出力ケーブル 15 cm
他のケーブルの接続は(※8, 12~13, 16~19ページ)

茶 2 m

茶 2 m

茶 2 m

茶 2 m

黒 2 m

ドライブレコーダーユニット「VREC-DS600」(別売)

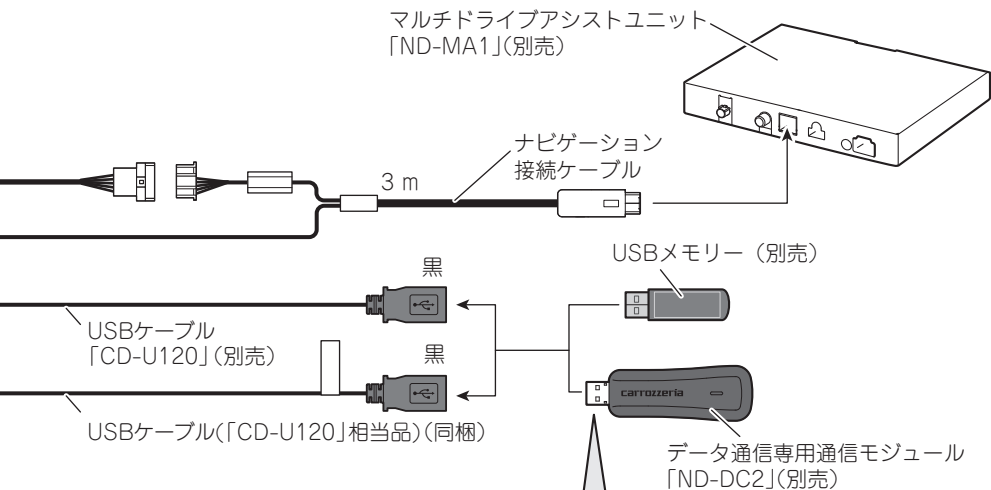
本機にドライブレコーダーユニット「VREC-DS600」を接続したときは、ナビゲーション本体の設定が必要です。(※49ページ)

注：ドライブレコーダーユニット「VREC-DS600」もしくはVTRなどの外部映像機器(AUX)のいずれか一方しか接続できません。

AV入力用変換ケーブル「CD-VRM200」(別売)

注：次の製品のうち2つを接続できます。

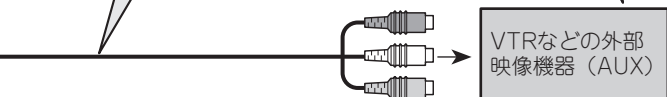
- マルチドライブアシストユニット「ND-MA1」(別売)
- データ通信専用通信モジュール「ND-DC2」(別売)
- ドライブレコーダーユニット「VREC-DS600」(別売)
- USBメモリー



マルチドライブアシストユニットを接続する場合は、データ通信専用通信モジュールはマルチドライブアシストユニットに接続してください。

長さが足りないときは、別売のミニジャック延長ケーブル(AV用)「CD-V200ME」をご使用ください。

本機にVTRなどの外部映像機器(AUX)を接続したときは、AUX設定(48ページ)が必要です。また、映像が出ない場合は、RCA端子の赤(右ch)と黄(ビデオ)の組み合わせを入れ換えてみてください。

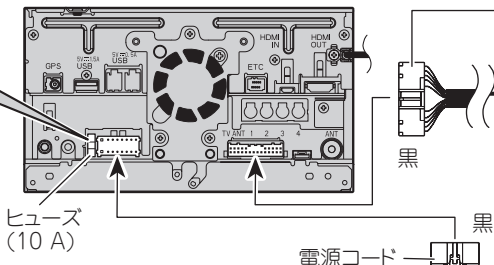


電源コードの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

注：製品の発煙・故障を防ぐために、灰色のリード線を必ず最初に接続してください。



アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。ノイズ防止のため、できるだけナビゲーション本体の近くに接続してください。

+バッテリー電源

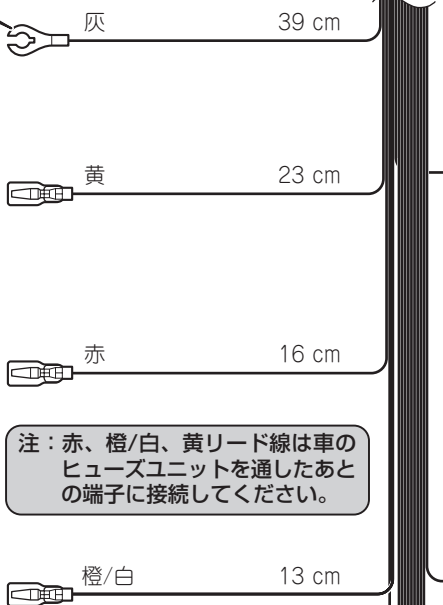
車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCポジションにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。エンジンスイッチにACCポジションがない車には絶対に取り付けしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

イルミ電源

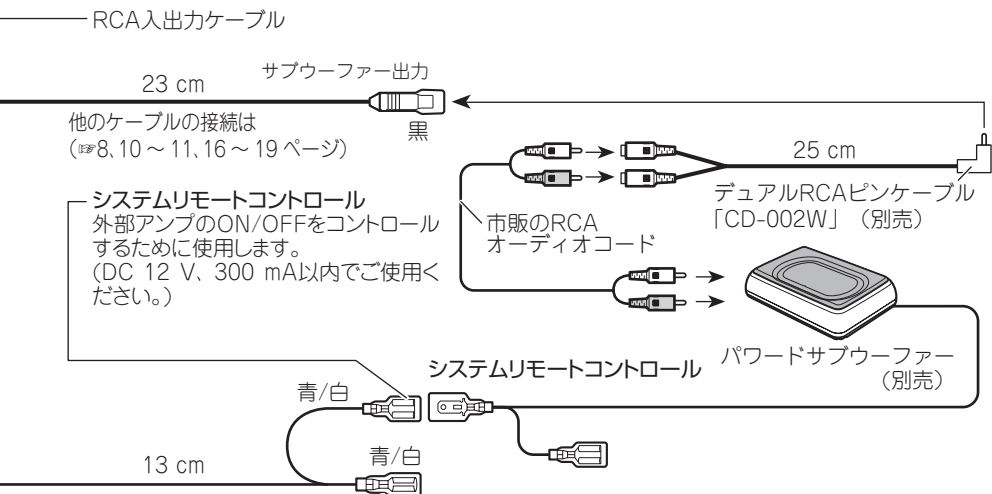
車のライトをONにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。



注：赤、橙/白、黄リード線は車のヒューズユニットを通したあとの端子に接続してください。

※：AVIC-CL902XS の取り付けについて、同梱の電源コードをご使用になる場合、別売の 8V 型カーナビゲーション取付キットに付属されているダイレクト接続ハーネスの加工や取付キットの追加購入が必要になります。

他のリード線の接続は (P.14~18ページ)



アンテナコントロール

アンテナをコントロールするために使用します。

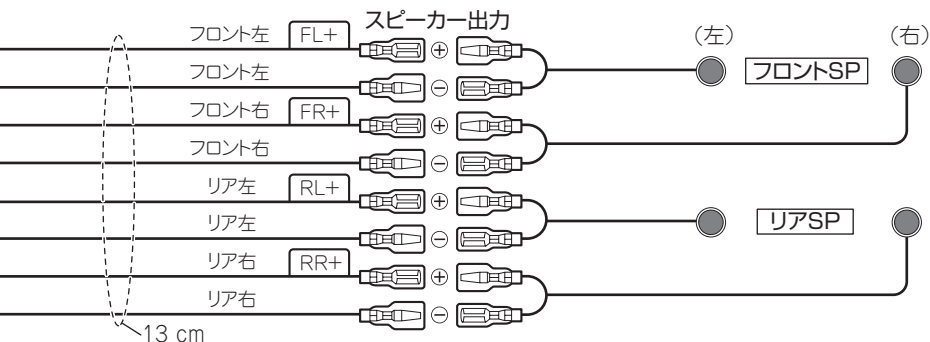
(DC 12 V、300 mA以内でご使用ください。)

下記車両については未接続状態の場合ラジオが受信できない場合がありますので必ず接続してください。

- オートアンテナ車の場合※：
車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
- ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車などの場合：
車側のアンテナブースターの電源入力端子に接続してください。

※車載のアンテナがオートアンテナの場合、エンジンスイッチのON(本機の電源ON)に連動してアンテナが上がります。屋内ではご注意ください。

ネットワークモードでの接続については(※18ページ)

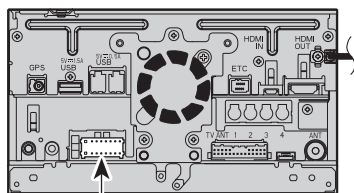


注：スピーカーを接続しないスピーカーリード線には何も接続しないでください。



電源コードの接続

つづき 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください



黒 電源コード

他のリード線の接続は
(12~13、16~18ページ)

バック信号入力

この接続は車の前進/後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

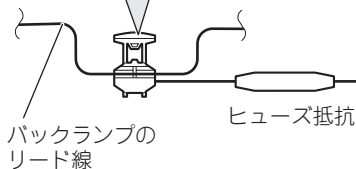
※接続しないと前進/後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。

※別売のバックカメラユニットを利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り換わりません。

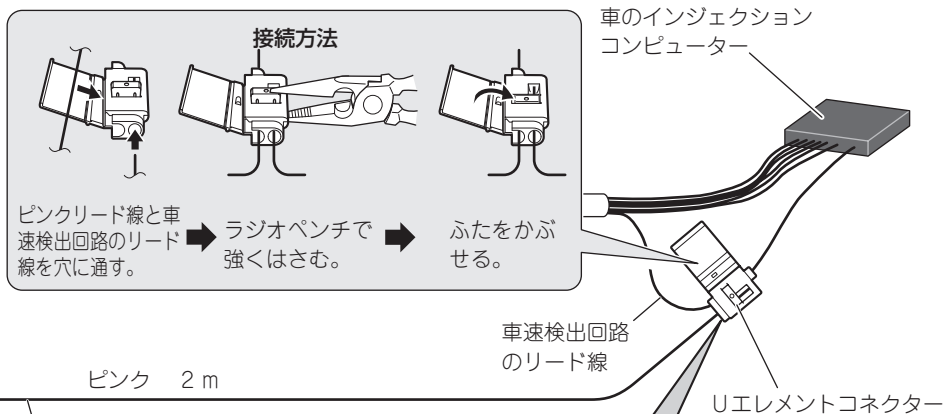
紫/白 2m

接続方法

バックランプのリード線をはさみ込む。 ➡ ラジオペンチで強くはさむ。



注：電源リード線の、ヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。



車速信号入力

車の走った距離を検出するために使用します。
必ず車の車速検出回路に接続してください。

注：必ず付属のUエレメントコネクタを使用してください。指定以外の物を使用すると接触不良の原因となります。

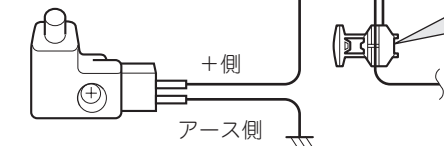
インジェクションコンピューターの車速検出回路の位置は、車種によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

パーキングブレーキスイッチ

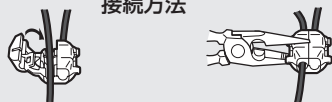
車が停車していることを確認するために使用します。必ずパーキングブレーキスイッチの+側リード線に接続してください。

若草色 2m

パーキングブレーキスイッチ



接続方法



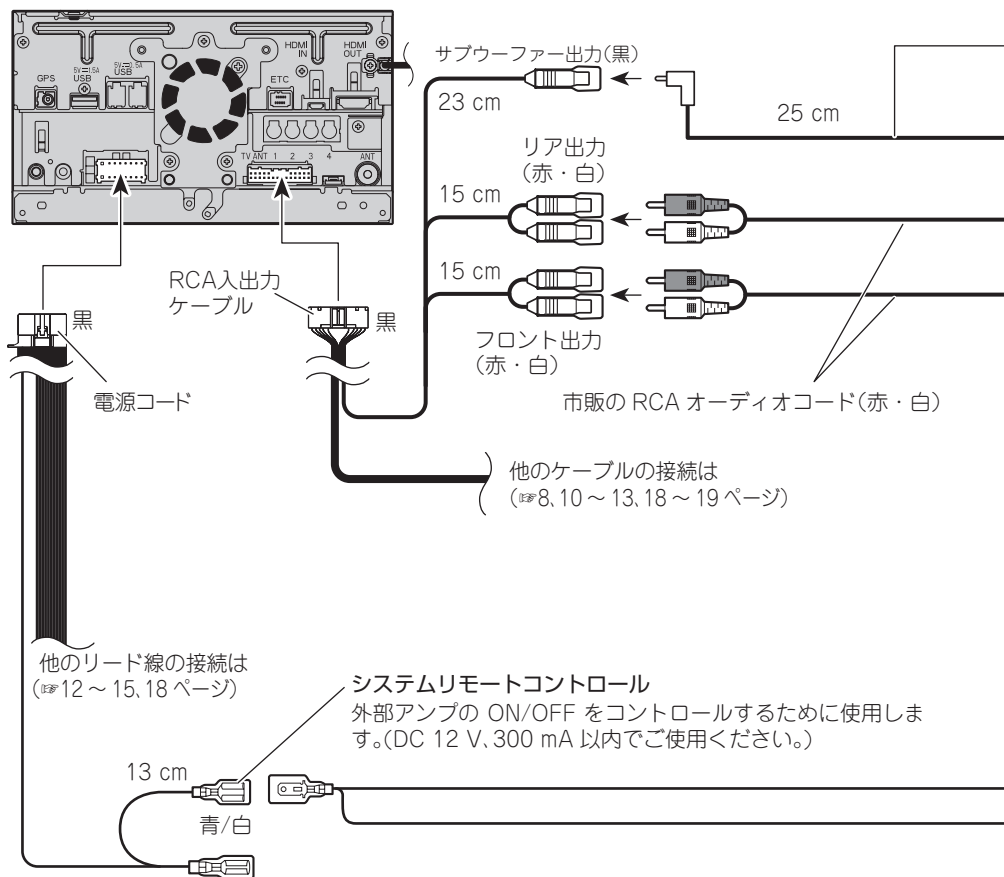
パーキングブレーキスイッチの+側リード線をはさみ込む。 → ラジオペンチで強くはさむ。



外部アンプの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

外部アンプを接続することができます。

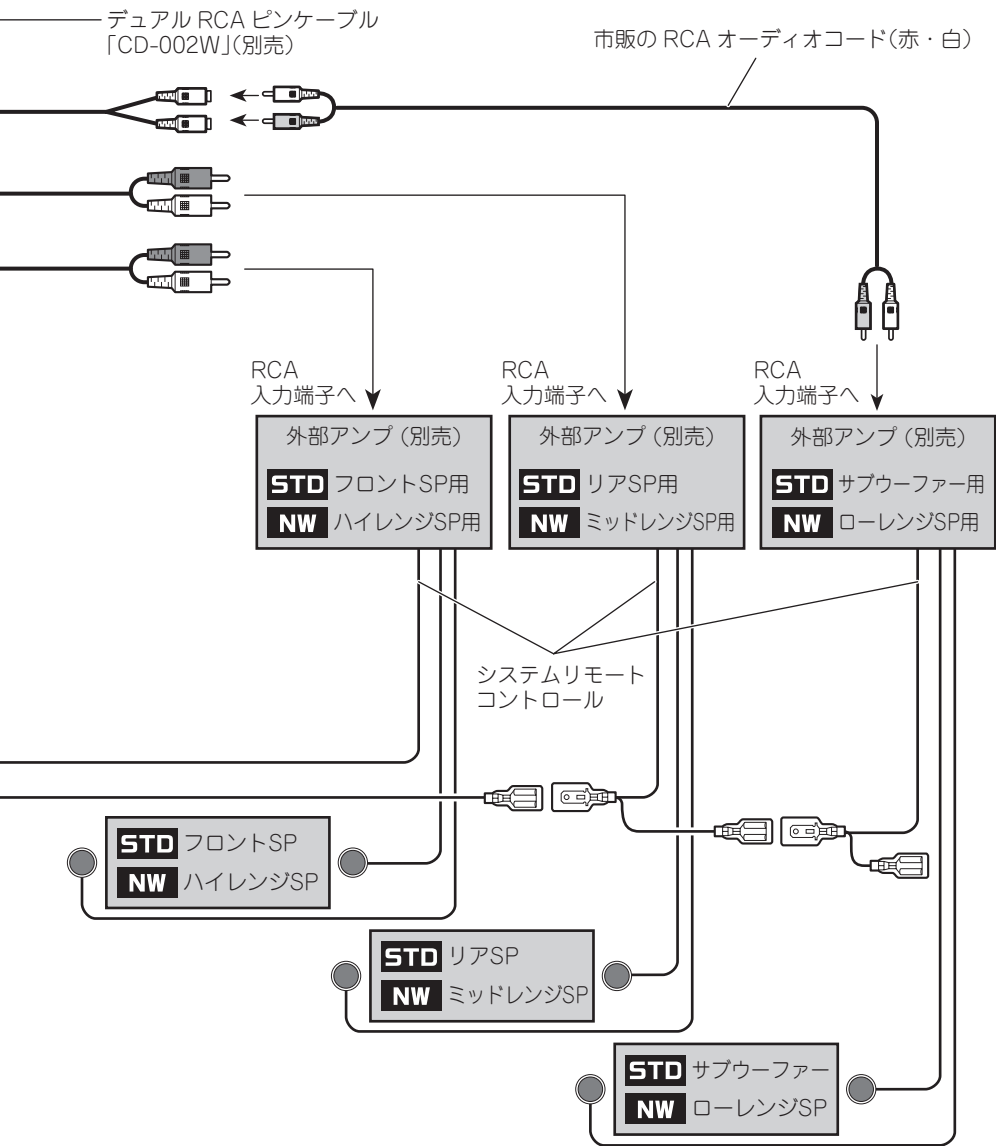


STD (スタンダードモード) :
フロント、リア、サブウーファーのスピーカーシステムを本機につなぐ場合

NW (ネットワークモード) :
3-way マルチアンプ・マルチスピーカーシステムを本機につなぐ場合

メモ

- お使いのスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモード (☞ 42 ページ) を設定する必要があります。

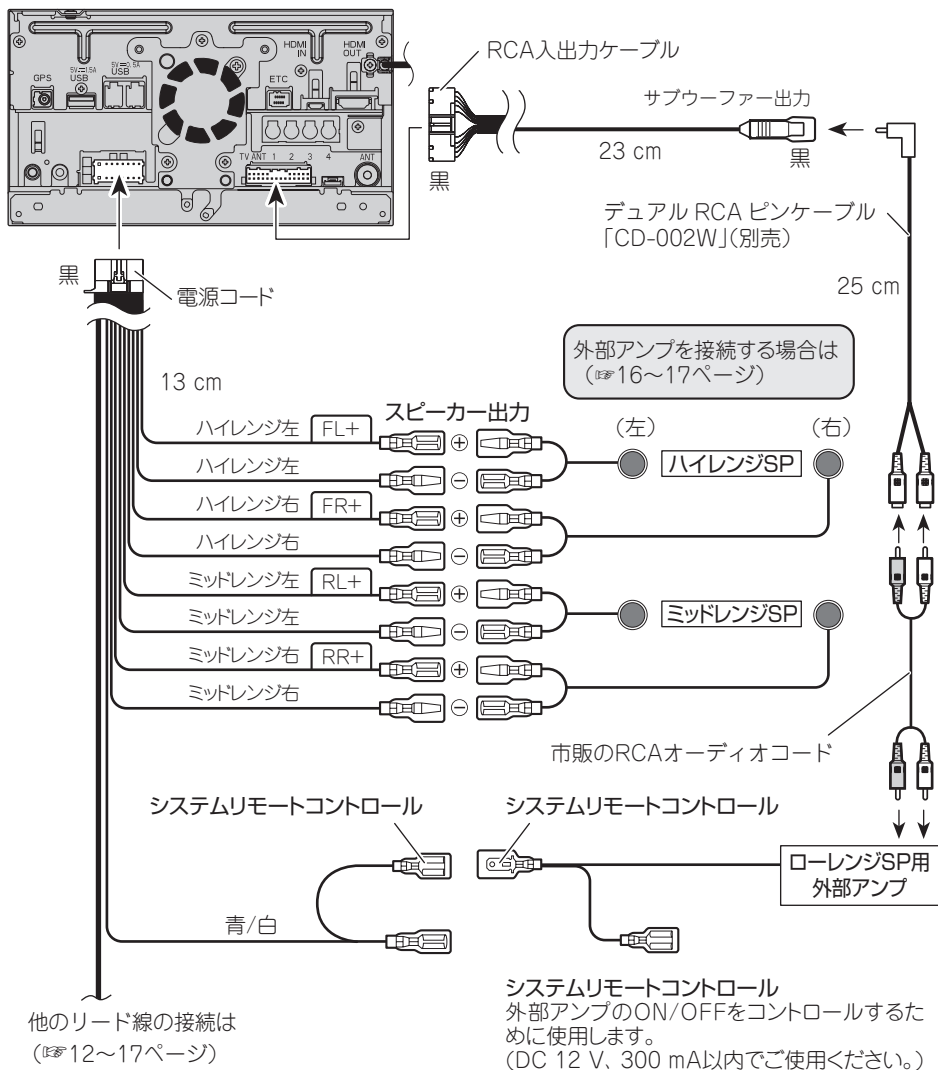




ネットワークモードの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

高・中・低それぞれの音域（バンド）を専用のアンプとスピーカーで再生する 3-way マルチアンプ・マルチスピーカーシステムを接続することができます。



メモ

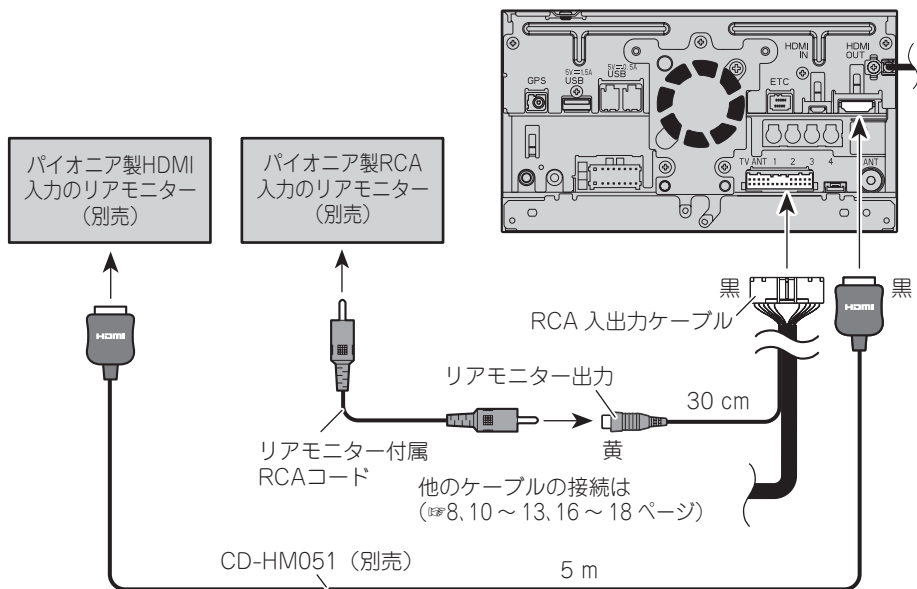
- 本機に 3-way マルチアンプ・マルチスピーカーシステムを接続する場合は、スピーカーモードをネットワークモードに設定する必要があります。(※ 42 ページ)



リアモニターの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

本機には、別売のパイオニア製リアモニター（HDMI 入力または RCA 入力）が接続できます。



接続のしかた

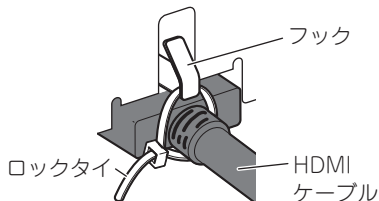
⚠ 注意

- 接続したリアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができない位置に設置してください。
- パイオニア製以外のモニターを接続した場合は、画像が乱れたり残像が残ったりする場合があります。また、フロントモニターに表示される映像と画質は異なります。
- 著作権保護された番組をビデオデッキなどで録画すると、著作権保護のための機能が働き、正しく録画できません。また、著作権保護の機能により、ビデオデッキを介してモニター出力した場合には、再生目的でも画質が劣化することがあります。これらは機器の問題ではありません。著作権保護された番組を視聴するときは、本機とリアモニターを直接接続してお楽しみください。

HDMI ケーブルの固定について

本機に HDMI ケーブルを接続する場合は、市販のロックタイを使って、HDMI ケーブルが抜けにくいようしっかりと固定してください。

- ① HDMI ケーブルとフックにロックタイを回す
- ② ロックタイを締める
- ③ HDMI ケーブルが確実に固定されていることを確認する



メモ

- 本機にリアモニターを接続したときは、リアクルーズモード設定 (※ 50 ページ) が必要です。

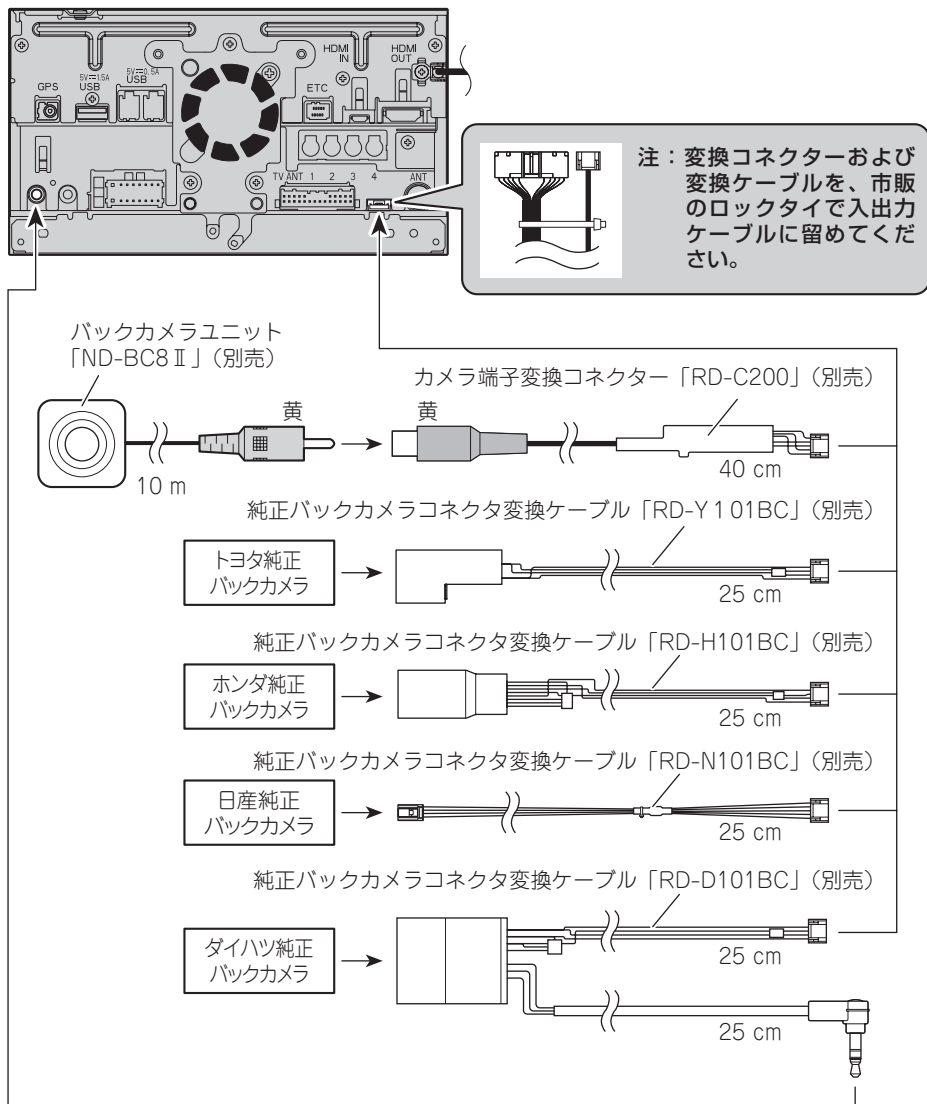


カメラユニットの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

本機には、カメラ端子変換コネクタ「RD-C200」(別売)を使ってバックカメラユニット「ND-BC8 II」(別売)を接続できます。

また、一部の純正バックカメラも別売の変換ケーブルを使って接続できます。



メモ

- バック信号入力線 (P. 14 ページ) の接続が必要です。
- バックカメラの映像を本機に表示するには、バックカメラ設定 (P. 47 ページ) が必要です。

iPhone / iPod、スマートフォンの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

別売の接続ケーブルを使い iPhone / iPod、スマートフォンを本機と接続することで、音楽や映像を再生できます。

iPhone / iPod の接続に必要なケーブル

端子の形状	接続方法	ケーブル
Lightning	USB 接続	「CD-IU010」(P. 22 ページ)
	HDMI 接続	「CD-HM021」、「CD-IU010」と Lightning - Digital AV アダプタ (Apple Inc. 製) (P. 23 ページ)
30 ピン	USB 接続	「CD-IU511」(P. 22 ページ)
	HDMI 接続	非対応

スマートフォン (Android™ 端末) の接続に必要なケーブル

端子の形状	接続方法	ケーブル
USB Type-C	USB 接続	「CD-U510」(P. 24 ページ)
	HDMI 接続	非対応
Micro-USB	USB 接続	「CD-U320」*1 (P. 24 ページ)
	MHL 接続*2	「CD-MUV330」*1 (P. 24 ページ)

※ 1 : 「CD-U320」、「CD-MUV330」に付属の USB 延長ケーブルは使用しません。

※ 2 : スマートフォン (Android™ 端末) が MHL 接続に対応している場合のみ接続できます。

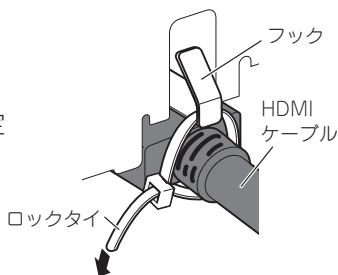
接続上のご注意

- 指定のケーブル以外は使用しないでください。動作不良や、製品の破損・故障の原因となる恐れがあります。

HDMI ケーブルの固定について

本機に HDMI ケーブルを接続する場合は、市販のロックタイを使って、HDMI ケーブルが抜けにくいようしっかりと固定してください。

- ① HDMI ケーブルとフックにロックタイを回す
- ② ロックタイを締める
- ③ HDMI ケーブルが確実に固定されていることを確認する

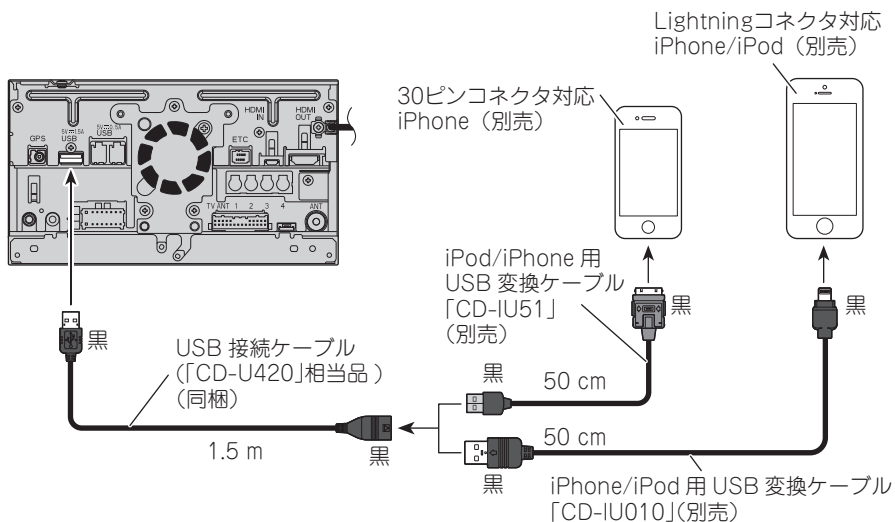




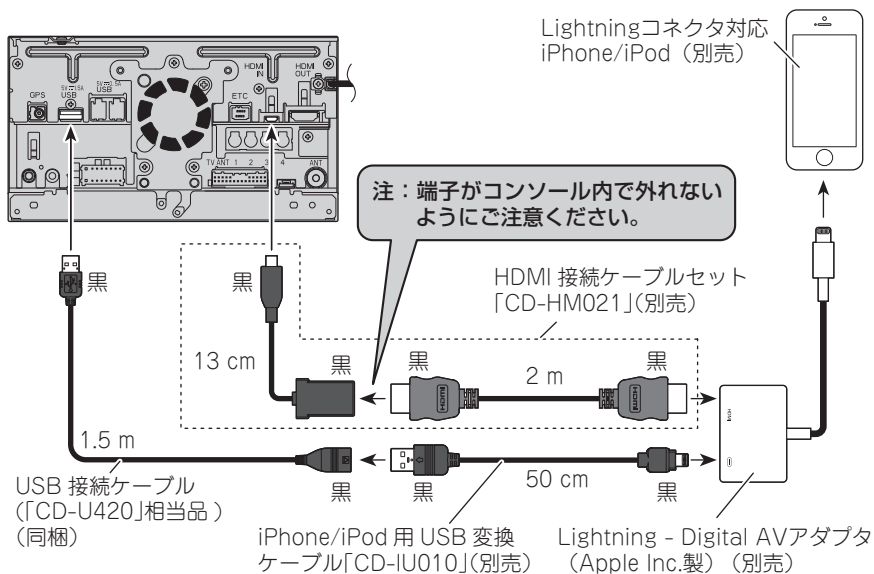
iPhone / iPod、スマートフォンの接続

つづき —必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

iPhone / iPod を USB 接続する場合



Lightning コネクタ対応端末を HDMI 接続する場合



メモ

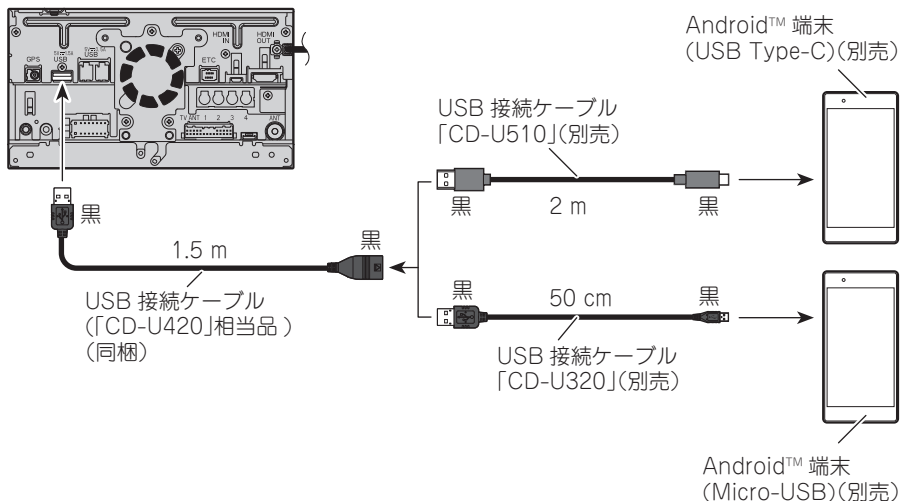
- HDMI ケーブルは、市販のロックタイを使ってフックに確実に固定してください。



iPhone / iPod、スマートフォンの接続

つづき 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください

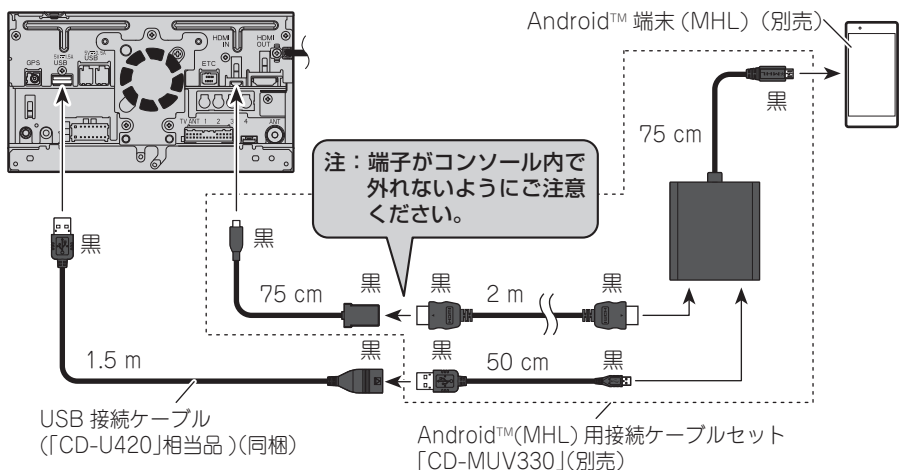
MTP 接続対応 Android™ 端末を接続する場合



メモ

- 「CD-U320」に付属のUSB延長ケーブルは使用しません。

Android™ 端末を MHL 接続する場合



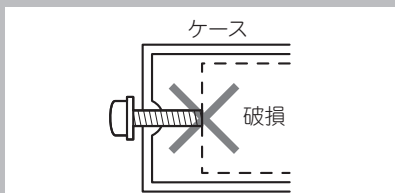
メモ

- HDMI ケーブルは、市販のロックタイを使ってフックに確実に固定してください。
- 「CD-MUV330」に付属のUSB延長ケーブルは使用しません。

取り付けの前に知ってほしいこと

取り付け上のご注意

- 必ず本機に付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認します。このときアンテナ類などは、受信状態のよい位置を確かめてから取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

粘着テープを貼り付ける前に

- 面ファスナーや両面テープを貼り付けるところは、汚れをよくふきとってください。

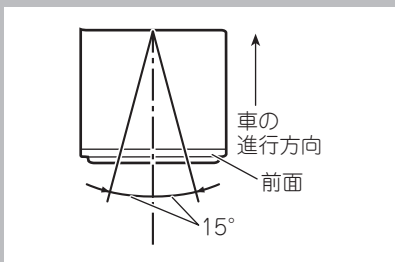
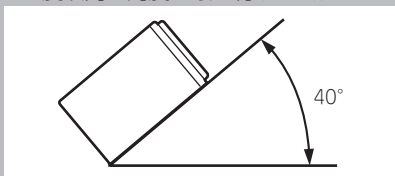
ノイズ防止のために

- フィルムアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。フィルムアンテナは、フィルムアンテナの取り付け（P.32 ページ）の説明に従って正しく取り付けてください。
- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコード
 - * ビーコンアンテナおよびそのアンテナコード
 - * マルチドライブアシストユニット「ND-MA1」（別売）および「ND-MA1」に付属のフロントカメラユニットそれぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

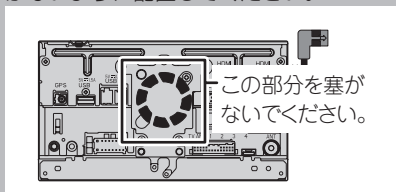
ナビゲーション本体の取り付け

取り付け上のご注意

- 本機の性能を十分に発揮するために、できるだけ水平に取り付けてください。また、取り付ける車両の特性上、取り付け角度が傾いてしまう場合は、水平に対して上の傾き 40 度以内の角度で取り付けてください。左右の傾きは車の進行方向に対してナビゲーション本体の前面が 15 度以内の角度で取り付けてください。



- 必ず本機に付属のネジを使用して、指定どおりに取り付けてください。付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。
- 放熱を妨げないために、下図の部分を塞がないように配置してください。



この部分を塞がないでください。

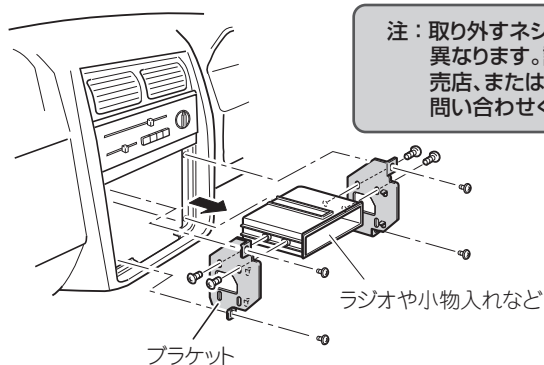
取り付けのポイント

取付キットを別売しています

- 日産車に取り付ける場合は、車種や年式によって別売の日産車用取付化粧パネル「ADT-N979 II」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。
- ※ 本機に「ADT-N979 II」を使用する場合は、上部にすきまができるようにパネルを上方向に寄せて取り付けてください。パネルを固定する際は、左右のみテープ留めを行い、上下にはテープを貼らないでください。
- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意してありますので、販売店にご相談ください。

1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを留めているブラケットを取り外します。
そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。

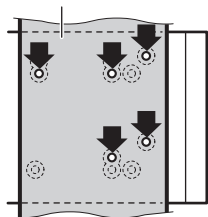


2 ネジ留めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。
次のネジ穴のうち 4 カ所または 3 カ所合う位置があります。

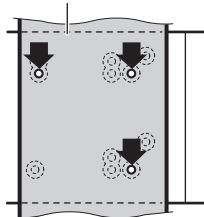
トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



日産車の場合

日産車ブラケット



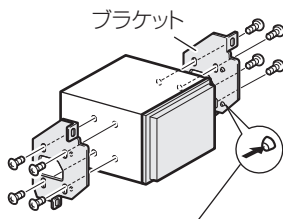


ナビゲーション本体の取り付け

つづき

3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ 4 か所または 3 か所ずつ、付属のネジでネジ留めして、元どおり車に取り付けます。



トラスネジ

(5 mm × 8 mm) × 8



皿ネジ

(5 mm × 9 mm) × 8

ブラケットのネジ穴の形状に合わせてネジを選びます。

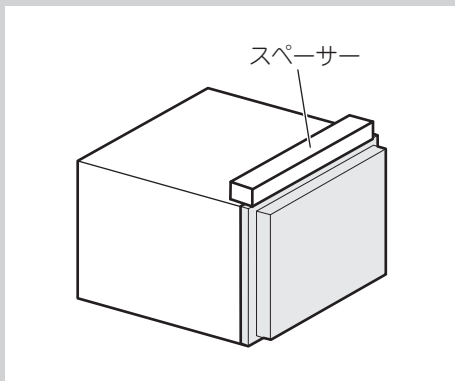
車両側のブラケットの凸部やツメが邪魔になり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。

* 作業の際には安全に十分ご注意ください。

注：付属のネジ以外は使用しないでください。
 付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。

ナビゲーション本体取り付け後のご注意 (AVIC-CZ902XS の場合)

ナビゲーション本体を取り付けたあと、車両との間にすきまがある場合は、ナビゲーション本体にスペーサーを貼ってすきまをふさいでください。なお、スペーサーを貼る手順は、車両によって異なります。



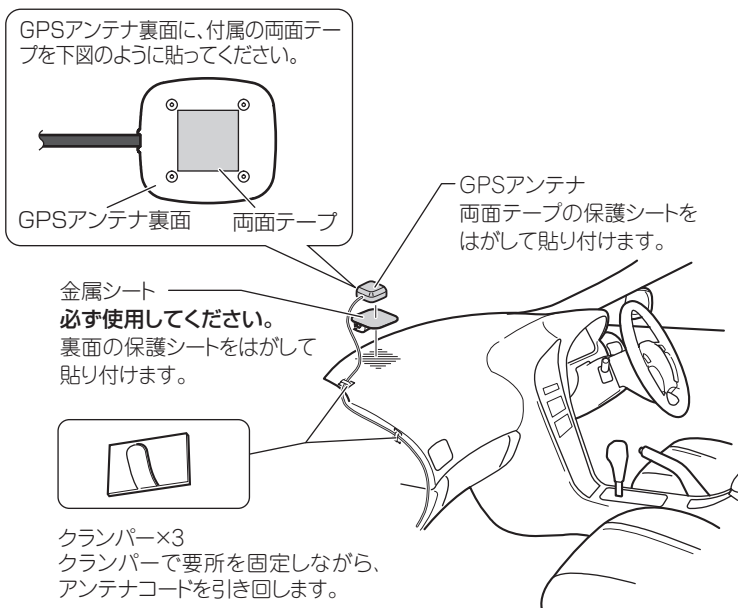
GPS アンテナの取り付け

取り付け上のご注意

- 付属の GPS アンテナは車室内取付専用です。電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売の GPS アンテナ（車室外取付用）「AN-GO50」（5 m）をご使用ください。
- GPS アンテナは、ワイパーやピラーなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。
- GPS アンテナは、グローブボックス内などには設置しないでください。
- GPS アンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
- GPS アンテナの取り付けには、必ず付属の金属シートを使用してください。使用しないと、十分な受信感度が得られなくなります。
- 付属の金属シートは、切って小さくしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。
- GPS アンテナは、ナビゲーション本体から 30 cm 以上離して設置してください。また、余った GPS アンテナコードをまとめて置くときも、ナビゲーション本体から 30 cm 以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下する場合があります。
- GPS アンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。コードが抜けてしまうことがあります。

取付例（ダッシュボード上）

車室内のなるべく水平な場所でアンテナがウィンドウの外に向く場所に金属シートを貼り付け、GPS アンテナを金属シートの上に貼り付けます。アンテナの取り付け位置は [接続状態画面] (P. 43 ページ) を参考に、十分に受信できる位置に取り付けてください。



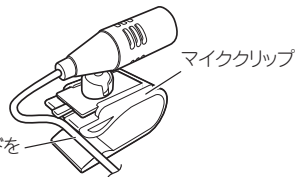
音声認識用マイクの取り付け

取り付け上のご注意

- ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー（反響音）を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。
- マイクコードの配線の引き回しによっては、長さが足りずサンバイザーへの取り付けができない場合があります。その場合は、配線の引き回し位置を変えて取り付けてください。

サンバイザーに挟んで取り付ける場合

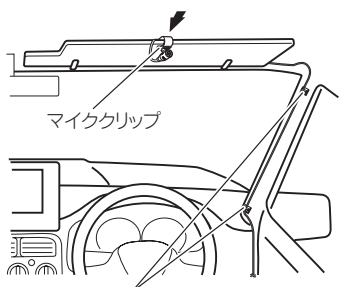
1 マイククリップの溝にマイクコードを埋め込む



溝にマイクコードを埋め込みます。

2 サンバイザーにマイククリップを挟み込み、マイクを取り付ける

サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、正しく音声認識されません。

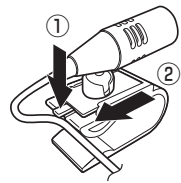


市販のクランパーなどで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。

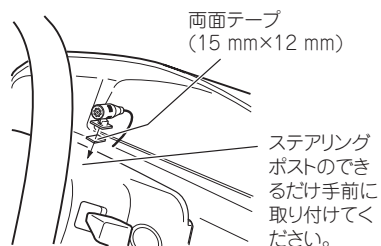
ステアリングポストに取り付ける場合

1 マイククリップを取り外す

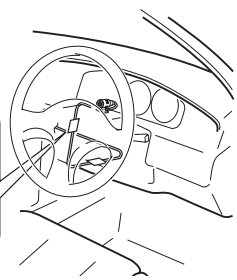
ステアリングポストに取り付ける場合は、マイククリップを取り外します。



2 ステアリングポストにマイクを取り付ける

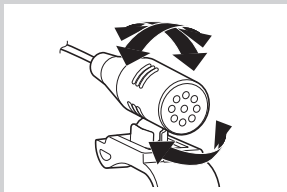


市販のクランパーなどで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。



マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、マイク本体の可動部を矢印の方向に動かして調節します。



フィルムアンテナの取り付け

取り付け上のご注意

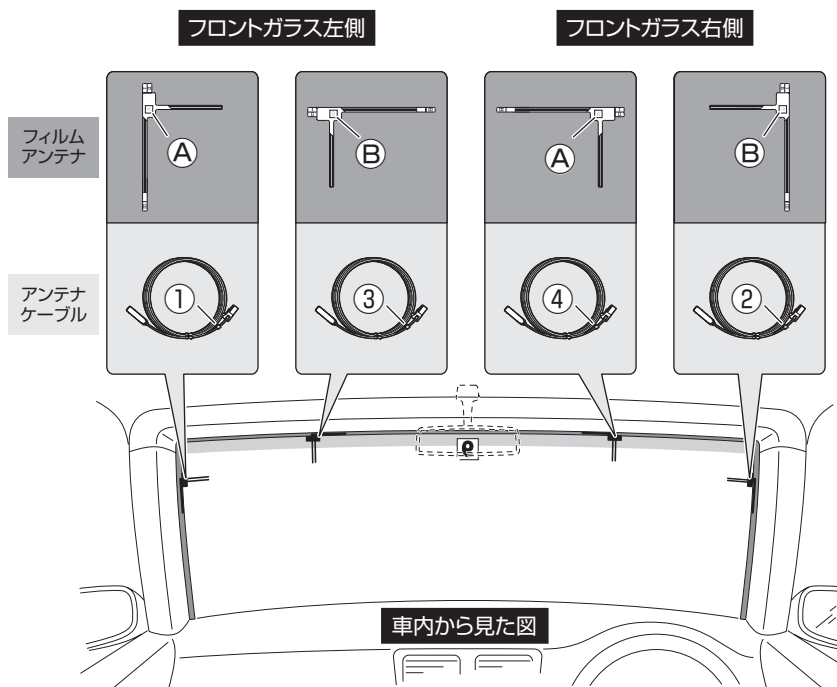
- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく貼り付けてください。
* 保安基準とは、道路運送車両の保安基準第 29 条及び細目を定める告示第 195 条をいいます。
- アンテナは、フロントウィンドウ貼り付け専用です。フロントウィンドウ以外には取り付けないでください。
- 熱線やプリントアンテナ上には貼り付けしないでください。ショートや発熱、性能劣化の原因になります。
- 本書では、フィルムアンテナの取り付け前に車内の内張りを取り外すよう説明していますが、ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両の場合は、絶対にピラーを取り外さないでください。フロントエアバッグの誤動作などの原因となり大変危険です。ピラーを取り外さずにフィルムアンテナを取り付ける方法について、詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- 車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 車種によって、取り付けられない場合があります。販売店に相談してください。
- 熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。お買い上げの販売店に確認してください。
- 必ず車内の取り付け場所に、市販のテープなどでいったんフィルムアンテナとアンテナケーブルを仮留めして、エレメントとアンプが貼り付けられることを確認してください。
- フィルムアンテナのフィルムやアンプの裏シートをはがしたあとは、給電端子などに手を触れないでください。静電気による故障や汗や汚れなどで接触不良の原因となります。
- フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。
- 作業場所は、風が無く、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもってしまう場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチを ON にしてウィンドウを暖めておいてください。
- 他のアンテナから 10 cm 以上離して取り付けてください。
- 指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナの余りをまとめる時は十分な曲げ角度（半径 15 mm 以上）を確保してください。

他のフィルムアンテナとの干渉を考慮して貼り付け位置を決めてください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直しできません。
必ずアンテナケーブルおよびフィルムアンテナを仮留めし、アンテナケーブルの引き直しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

貼り付け位置について

フィルムアンテナは、①、②の2種類、フィルムアンテナケーブルは1A、2B、3B、4Aの4種類があり、組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています。それぞれを組み合わせ下記の位置に貼り付けてください。



取り付けかた



フィルムアンテナの取り付け

つづき

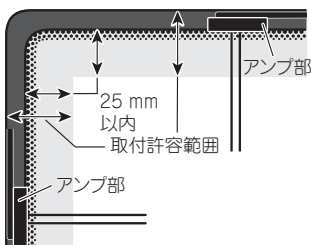
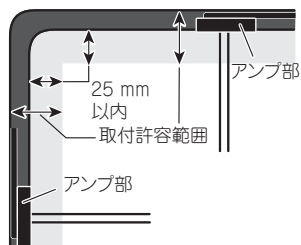
貼り付け位置について (つづき)

⚠️ 必ずお守りください

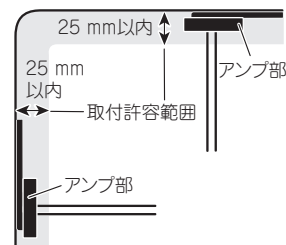
運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「アンブ部の貼付許容範囲」および「エレメントの貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

アンブ部の貼付許容範囲

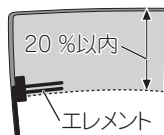
■ セラミックライン有り



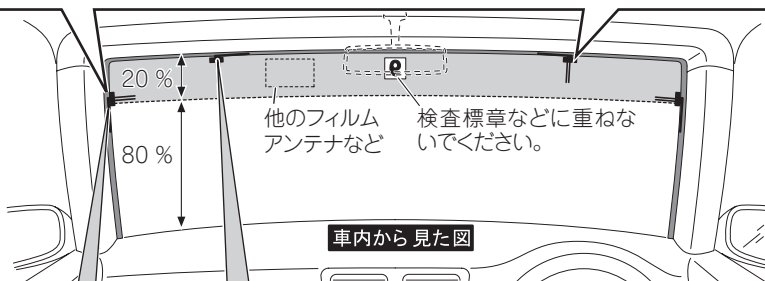
■ セラミックライン無し



エレメントの貼付許容範囲



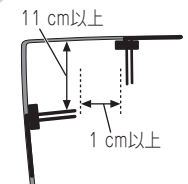
エレメント下端(透明部含む)がガラス開口部の実長の20%以内に納まるように貼る



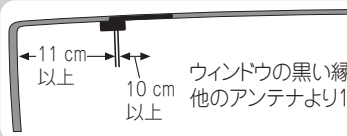
車内から見た図

取り付け推奨範囲について

- フロントガラスのウィンドウの黒い縁(セラミックライン)より11 cm以上離す。
- 他のアンテナより10 cm以上離す。
- 同梱のフィルムアンテナどうしは1 cm以上離す。



ウィンドウの黒い縁(セラミックライン)より11 cm以上離す



ウィンドウの黒い縁(セラミックライン)より11 cm以上離す
他のアンテナより10 cm以上離す

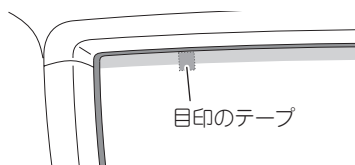
フィルムアンテナを貼り付ける

メモ

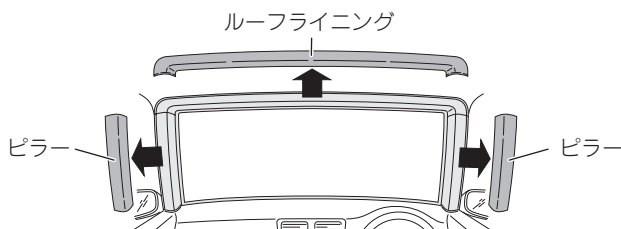
- フィルムアンテナは⑩用で説明しています。

1 フィルムの仮位置を決める

フィルムアンテナの貼り付けの際、「貼り付け位置について」を参照して仮位置を決め、テープなどで目印を付けてください。



2 車内の内張り（ピラー、ルーフライニングなど）を取り外す



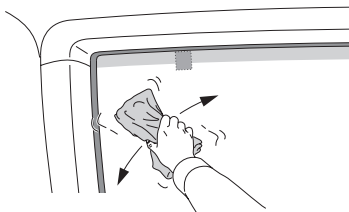
3 ケーブルを引き回す仮位置を決める

フィルムアンテナの取り付け

つづき

4 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。

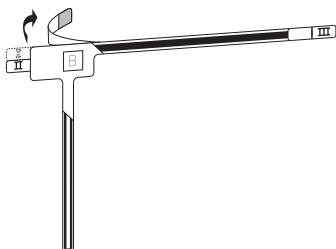


注：クリーナークロスで拭いたあとは、貼り付ける場所およびエレメントには触れないでください。

5 フィルムアンテナを貼り付ける場所を、十分に乾燥させる

6 セパレーター I をはがす

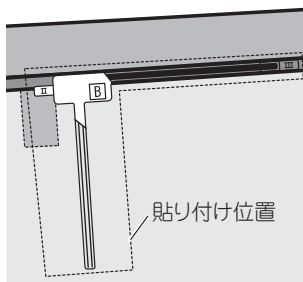
タグを持ってセパレーター I をゆっくりはがします。



※ セパレーター I をはがしたあとは、粘着面に触れないでください。

7 フィルムをフロントウィンドウに貼り付ける

ガラス面の目印にフィルムを合わせ、フィルムに空気が入ったり、シワが寄らないようにゆっくりと端から貼り付けます。また、一度貼り付けたフィルムをはがしたり位置を変えたりすることはできません。

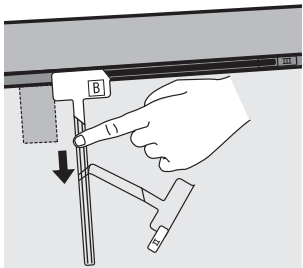


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからフィルムを貼り付けてください。

※ ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。

8 セパレーターⅡをはがしながらエレメントを貼り付ける

指でエレメントをガラス面に押しつけながらセパレーターⅡをはがしてください。



注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

※ 手順 11 でアンブを貼り付ける部分には触れないでください。

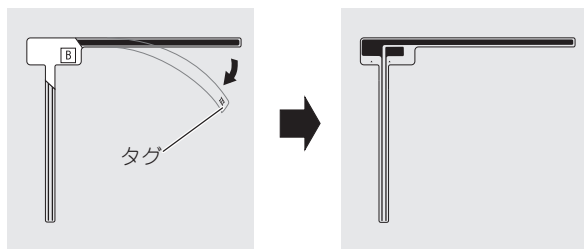
9 残りのフィルムアンテナも同様に貼り付ける

フィルムアンテナの取り付け

つづき

10 保護フィルムⅢをはがす

エレメントがガラス面に貼り付いていることを確認しながら、タグを持って保護フィルムⅢをゆっくりはがします。



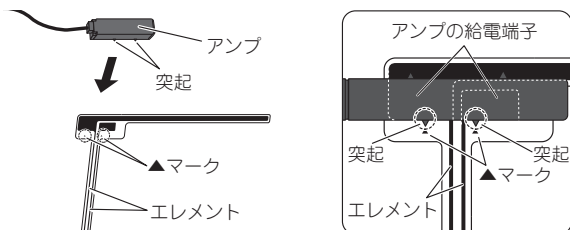
エレメントだけが貼り付く

※ エレメントが保護フィルムⅢと一緒にはがれる場合は、保護フィルムⅢを元に戻してガラス面に貼り付くように強く押しつけてください。

11 アンプをエレメントに貼り付ける

アンプの裏シートをはがして、エレメントの給電端子接触部の○マークと、アンプの給電端子の突起を合わせるように貼り付けます。アンプを貼り付けたあとは、アンプをしっかりと押し付けてください。

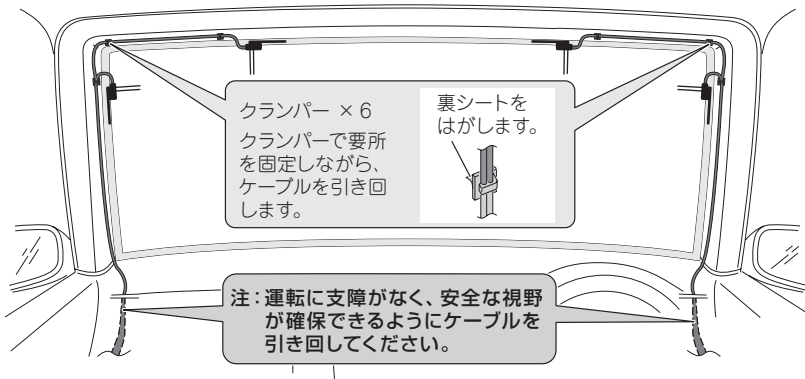
組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています。(P. 33 ページ)
アンテナケーブルにある番号を確認のうえ、下図のとおり貼り付けてください。



注：

- フィルムアンテナの▲マークとアンプの給電端子の突起を合わせないと、受信できません。
- ケーブルを引っ張った状態で、アンプをエレメントに貼り付けしないでください。

12 ケーブルを引き回す



注：危険ですので、運転席の足元付近は、配線を引き回さないでください。

13 内張りを元に戻す

注：アンプのケーブル根元に負荷がかからないように注意してください。

スマートコマンダーの取り付け

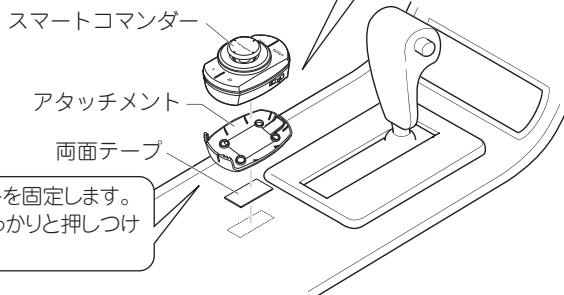
取り付け上のご注意

- スマートコマンダーは必ず固定してください。固定しないで放置しておくと、スマートコマンダーが転がってブレーキペダルの下に入り込み、大変危険です。
- 車の安全装置（エアバッグなど）の動作の妨げになる場所には絶対に取り付けないでください。
- スマートコマンダーに電池を入れてから、取り付けてください。詳しくは取扱説明書を参照してください。
- 使いやすく、しっかり固定できる場所に取り付けてください。取り付け位置についてご不明な場合は、販売店にご相談ください。
- アタッチメントを両面テープで固定できない場合は、付属のネジを使用してください。取り付け位置によっては、車のパネルなどを破損してしまう恐れがあるため、販売店にご相談ください。
- 取り付け位置の湿気、ホコリ、汚れ、または油などをよく拭きとってから両面テープを貼り付けてください。
- 両面テープの接着力を発揮するために、貼り付けてから 24 時間以上放置してください。
- 両面テープの貼り付け位置は、仮置きして慎重に選んでください。接着力が強いので、一度貼り付けると簡単にはがせません。無理にはがそうとすると、パネルの変形や破損の原因になります。
- 両面テープは、一度はがすと接着力が弱くなるため貼り直せません。

スマートコマンダーで本機を操作するには、事前に設定が必要です。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

取り付け例

スマートコマンダーをアタッチメントに取り付けます。
その際、スマートコマンダーが確実にアタッチメントに
固定されていることを確認してください。



両面テープでアタッチメントを固定します。
その際、アタッチメントをしっかり押しつけ
てください。

アタッチメントから取り外す



スピーカーモード設定を行う

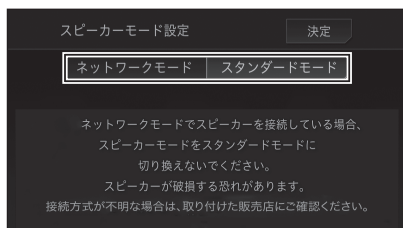
お使いのスピーカーシステムに応じて、本機のスピーカーモード設定を行ってください。

メモ

- 3-way マルチアンプ・マルチスピーカーシステムの接続について、詳しくは外部アンプの接続 (E8 16 ~ 17 ページ) およびネットワーク接続 (E8 18 ページ) をご覧ください。
- また、スピーカーシステムに付属の取扱説明書をご覧ください。

1 車のエンジンをかける

2 スピーカーモード設定画面が表示されたら、スピーカーの接続状態に合わせたモードにタッチする

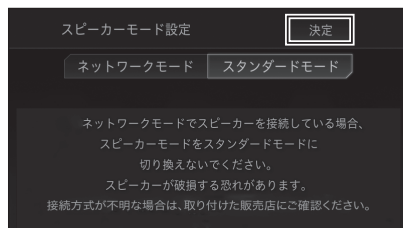


スタンダードモード: フロント・リアの4スピーカーシステム、またはフロント・リア・サブウーファースのフルレンジスピーカーシステムを構築している場合に選択します。

通常はこちらを選択します。

ネットワークモード: 高・中・低音域のそれぞれの音域 (バンド) を専用のアンプとスピーカーで再生する 3-way マルチアンプ・マルチスピーカーシステムを構築している場合に選択します。

3 決定にタッチする



4 引き続き、接続・取り付けの確認を行う

次ページの「接続・取り付けの確認を行う」をご確認ください。

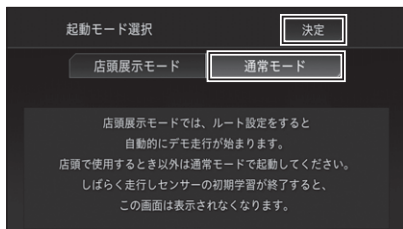
ご注意

- 設定を変更する場合は、一度初期化を行う必要があります。

接続・取り付けの確認を行う

接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、接続・取り付けの確認を行ってください。

1 次の画面が表示されたら**通常モード** —**決定**にタッチする



ご注意

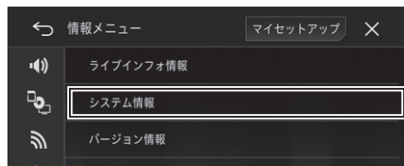
- **店頭展示モード**を選択しないでください。**店頭展示モード**を選択してしまった場合は、エンジンをかけ直してください。

2 次の画面が表示されたら あとで設定するにタッチする



3 田を押して HOME 画面を表示 する

4 AV・本体設定 — ① — システム 情報 — 接続状態 の順にタッチする



5 接続状態を確認する (※次ページ)



6 接続状態を確認したら、✕にタッチする

接続・取り付けが終わったら



接続・取り付けの確認を行う

つづき

接続状態画面の見かた

GPS アンテナ：

GPS アンテナの接続状態と受信状態を確認できます。

正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合は [未接続] が表示されます。

その右側に表示されるアンテナマークで GPS アンテナの受信状態を確認できます。

電波の受信しやすい見晴らしの良い場所で2本以上バーが表示されていれば良好です。

測位状態：

現在の測位状態（3次元測位／2次元測位／未測位）が表示されます。

その右側には測位に使われている衛星（橙色）と受信中の衛星（黄色）の数が表示されます。

3つ以上の衛星の電波を受信すると現在地の測位が可能になります。

取付位置：

ナビゲーション本体の取り付け状態を確認できます。必ずエンジンをかけた状態で停車して確認してください。

停車時に [振動許容範囲外] が表示された場合は、測位の精度が悪くなります。車の振動が少ない位置にしっかりと取り付け、停車時に [OK] が表示されるのを確認してください。

また走行後に [取付角度許容範囲外] が表示された場合は、ナビゲーション本体の取付角度が許容範囲外です。販売店にご相談ください。

車速パルス：

車速信号入力（ピンクリード線）の接続状態を確認できます。

正しく接続されていれば、車を走行させると“ピッ”と発音音がして、数字とバーが表示されます。

数字とバーは本機が測定したパルス数をあらわしています。“ピッ”音とパルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速（時速 5 km/h 程度）で行ってください。

イルミネーション：

イルミネーション（橙 / 白リード線）の接続状態を確認できます。車のライトを点灯させてください。

ライトを点灯すると [ON]、消すと [OFF] が表示されます。

バック信号：

バック信号入力（紫 / 白リード線）の接続状態を確認できます。

パーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーを R（リバース）の位置から R（リバース）以外の位置にすると LOW から HIGH、または HIGH から LOW に切り換わります。

パーキングブレーキ：

パーキングブレーキスイッチ（若草色リード線）の接続状態を確認できます。

ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけ直してください。パーキングブレーキを解除すると [OFF]、かけ直すと [ON] が表示されます。

ETC/ETC2.0 ユニット：

ETC ユニットまたは ETC2.0 ユニットの接続状態を確認できます。必ずセットアップしてから確認してください。

正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合は [未接続]、エラーがある場合はエラー番号が表示されます。

車載器管理番号：

現在接続中の ETC ユニットまたは ETC2.0 ユニットの車載器管理番号が表示されます。ETC ユニットまたは ETC2.0 ユニットが正しく接続されていない場合は表示されません。

カード有効期限：

現在接続中の ETC ユニットまたは ETC2.0 ユニットに挿入したカードの有効期限が表示されます。ETC ユニットまたは ETC2.0 ユニットが正しく接続されていない場合や、機種によっては表示されません。

通信モジュール：

通信モジュールの接続状態を確認できます。

正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合は [未接続] が表示されます。

通信モジュール接続中は使用期限も表示されます。(お客様が取り付けた直後(取り付けた月)は表示されません。)

MA ユニット：

マルチドライブアシストユニットの接続状態を確認できます。

正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合は [未接続] が表示されます。

ただし、マルチドライブアシストユニットを一度も接続していない場合は、項目自体が表示されません。

ビーコンユニット：

ビーコンユニットの接続状態を確認できます。

正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合は [未接続] が表示されます。

ただし、ビーコンユニットを一度も接続していない場合は、項目自体が表示されません。

ドライブレコーダー：

ドライブレコーダーユニットの接続状態を確認できます。

正しく接続されていて動作可能な場合は [OK]、未接続の場合は [未接続] が表示されます。

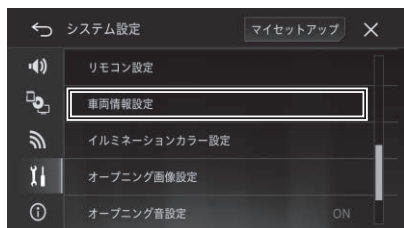
ただし、ドライブレコーダーユニットを一度も接続していない場合は、項目自体が表示されません。

ステアリングリモコン設定を行う

本機に、別売のステアリングリモコンアダプター、ステアリングリモコンケーブルを接続する場合は、ステアリングリモコン設定を行ってください。正しく設定を行わないと動作しません。ステアリングリモコンの設定、適合情報については以下のホームページをご覧ください。
 < https://pioneer.jp/carrozzeria/support/steering_remotecontrol/ >

1 **田**を押してホームメニューを表示する

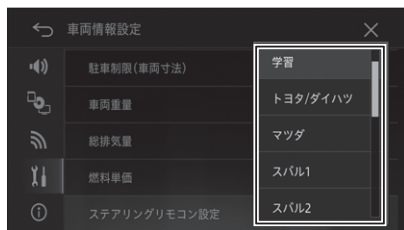
2 AV・本体設定—車両情報設定の順にタッチする



3 ステアリングリモコン設定にタッチする



4 設定したい項目にタッチする



学習: 各ボタンに自分で機能を選んで割り当てることができます。

車両メーカー名: お乗りの車のメーカーに合わせて、あらかじめ用意された機能が割り当てられます。

アダプター: ステアリングリモコンアダプターを接続している場合に選択します。

5 設定が終了したら、**✕**にタッチする

メモ

- **学習**にタッチした場合は、お好みの機能をステアリングリモコンに割り当てることができます。詳しくは『ユーザーズガイド』をご覧ください。

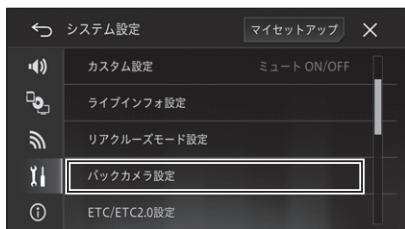


バックカメラ設定を行う

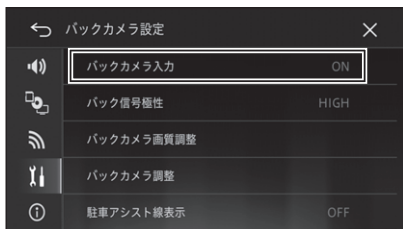
本機にバックカメラを接続した場合は、バックカメラ設定を行ってください。

1 を押してホームメニューを表示する

2 **AV・本体設定** - - **バックカメラ設定** の順にタッチする



3 **バックカメラ入力** にタッチして「ON」に設定する



4 **バック信号極性** にタッチしてカメラの極性を選択する



LOW: 接続状態画面 (P. 44 ページ) で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が [LOW] になる車両の場合はこちらを選びます。

HIGH: 接続状態画面 (P. 44 ページ) で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が [HIGH] になる車両の場合はこちらを選びます。

5 設定が終了したら、 にタッチする

接続・取り付けが終わったら



AUX 設定を行う

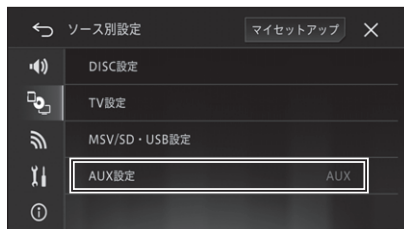
本機に VTR などの外部映像機器を接続した場合は、AUX 設定を行ってください。

1 **HOME** を押してホームメニューを表示する

2 **AV・本体設定** の順にタッチする



3 **AUX 設定** の順にタッチする



4 設定が終了したら、**マイセットアップ** にタッチする



ドライブレコーダー設定を行う

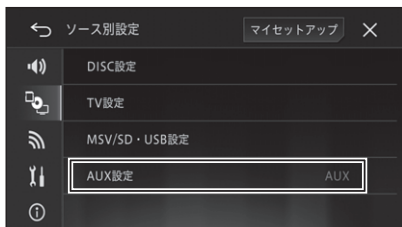
本機にドライブレコーダーユニット「VREC-DS600」を接続した場合は、本機の設定を行ってください。

1 を押してホームメニューを表示する

2 AV・本体設定 の順にタッチする



3 AUX設定 - Drive Recorder の順にタッチする



4 設定が終了したら、 にタッチする

メモ

- **Drive Recorder** は、本機にドライブレコーダーユニット「VREC-DS600」を接続したときのみ表示されます。

接続・取り付けが終わったら



リアクルーズモード設定を行う

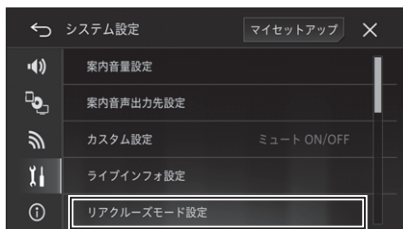
本機にリアモニターを接続した場合は、リアクルーズモード設定（映像出力先設定、音声出力設定）を行ってください。

メモ

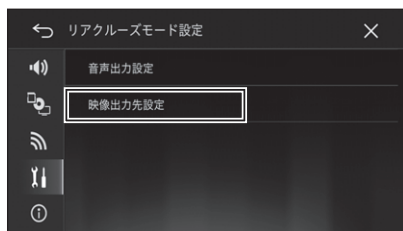
- 映像出力先設定と音声出力設定はどちらから設定しても構いません。本説明書では映像出力先設定を先に行う手順を例として説明しています。
- 映像出力先設定を行う際は、あらかじめリアクルーズモードを **Rear OFF** にしてください。**Rear OFF** 以外の場合は、**映像出力先設定**を設定できません。詳しくは取扱説明書の「リアモニターの映像を設定する」(P.98 ページ) をご確認ください。
- スピーカーモード設定 (P.42 ページ) をネットワークモードに設定している場合は、**音声出力設定**は選択できません。

1 を押してホームメニューを表示する

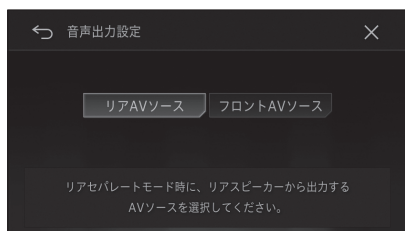
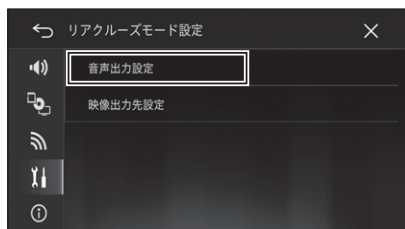
2 AV・本体設定 リアクルーズモード設定の順にタッチする



3 **映像出力先設定** にタッチして、リアモニターとの接続方法を選択する



4 音声出力設定にタッチして、リアスピーカーに出力する AV ソースの音声を選択する



5 設定が終了したら、**✕**にタッチする

6 リアモニターに出力する映像ソースを、AV メニューを表示し **Rear Cruise** にタッチして選択する

AV メニューの表示方法や Rear Cruise の設定については取扱説明書をご確認ください。

メモ

- リアクルーズモードの映像出力設定を **HDMI/RCA** にすると、**Rear Cruise** を **ミラーリング** に設定できません。
- 本機に RCA 入力のリアモニターを接続した場合は、**Rear Cruise** を **ビジュアル** に設定すると、HDMI ソース再生時にリアモニターの画面が黒画になります。



センサー学習のエラーメッセージ

接続確認と各種設定を完了し、走行を開始すると本機は自動的に 3D ハイブリッドセンサーの初期学習を行います。その際、つぎのようなエラーメッセージが表示されたときは、エラーの原因を取り除いてください。

<走行開始後のエラーメッセージ>

- **【車速信号線が外れました。接続を確認してください。】**
- **【車速パルス信号が異常です。接続を確認してください。】**
ピンクリード線（車速信号入力）の接続先および接続状態を確認してください。
- **【3Dハイブリッドセンサーが正常に動作しません。本体の取り付け角度を確認してください。取り付け角度が正常な場合は、パイオニア修理受付窓口にご相談ください。】**
「ナビゲーション本体の取り付け（P.26 ページ）」を参照して、取付角度が間違っていないか確認してください。取付角度が正しい場合は、内蔵センサーの故障が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- **【車速パルスが接続されていません。簡易ハイブリッドで動作します。】**
ピンクリード線（車速信号入力）を接続してください。接続すると、3D ハイブリッドで初期学習をやり直します。

<その他のエラーメッセージ>

- **【GPS アンテナが接続されていません。接続を確認してください。】**
- **【GPSアンテナが正常に動作しません。取り付け状態を確認してください。取り付け確認後、メッセージが表示され続ける場合はパイオニア修理受付窓口にご相談ください。】**
GPS アンテナの接続を確認してください。正しく接続されている場合は、断線・故障・劣化等が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- **【内蔵のセンサーが異常です。パイオニア修理受付窓口またはお買上げの販売店にご相談ください。】**
内蔵のセンサーの故障が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。



メモ

